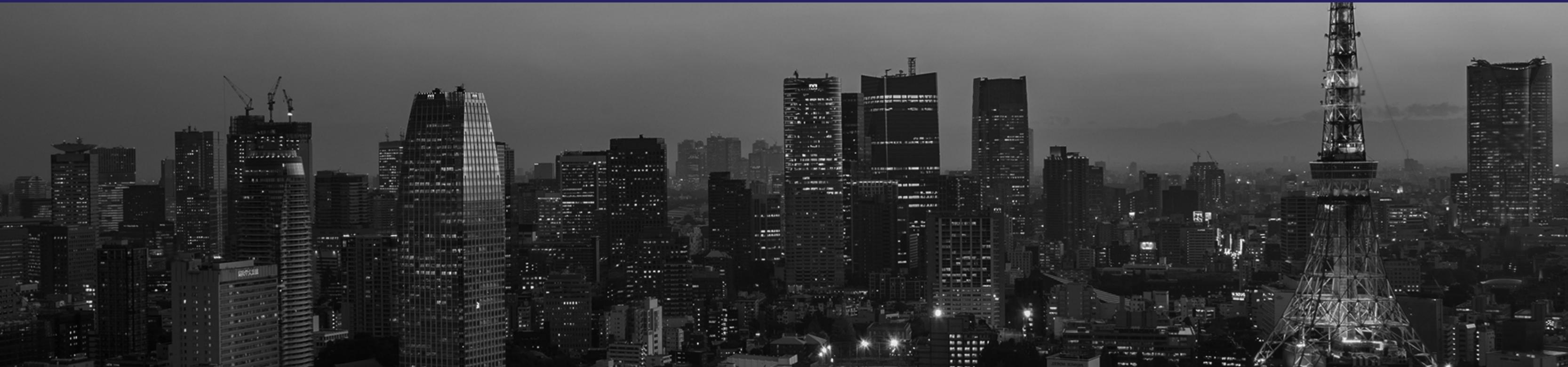




Top Leaders

ロジカルシンキングの基礎②

株式会社トップリーダーズ：細谷 知司





Menu

1. 4つの基本フレームワーク

- ① マンダラート
- ② ロジックツリー
- ③ MECE
- ④ ピラミッドストラクチャー

2. 活用の留意点

1.4つの基本フレームワーク



Top Leaders

① マンダラート (9 マス分析) ※今泉浩晃氏の考案。仏教の曼荼羅に由来

☑ フレームワークの特徴

⇒タスクのピックアップ **細分化による漏れの抽出**

☑ 基本的な活用方法

⇒ **3×3 マス**の中心にメインの課題を記載し、周辺の8マスに達成に必要な項目を記載していく



Top Leaders

② ロジックツリー（なぜなぜ分析）

☑ フレームワークの特徴

⇒ **疑問詞を活用**した真因の特定、解決策の策定 etc.

☑ 基本的な活用方法

⇒主に用いるのは **why/what/how** の3つ

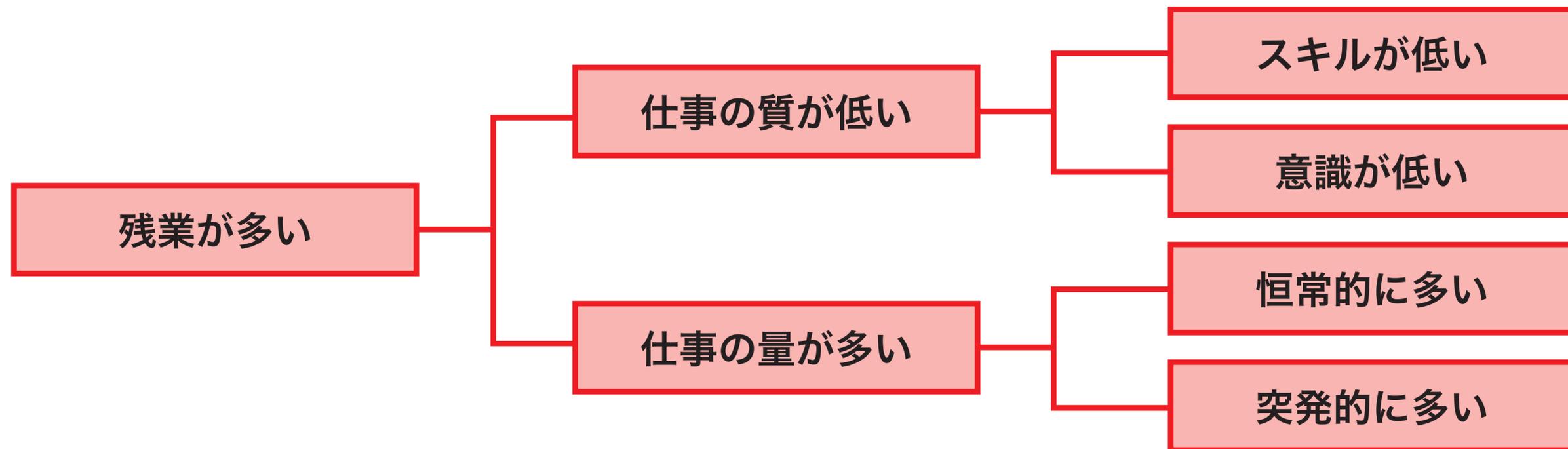
1つの検討フェーズに複数の疑問詞を用いないこと



Top Leaders

「残業が多い」という課題解決の例

⇒以下は **why** を活用して真因を深掘りしている。





Top Leaders

② **MECE** ※「Mutually Exclusive, Collectively Exhaustive」の頭文字を取ったもので「もれなく、ダブリなく」を意味する

☑ フレームワークの特徴

⇒ より小さな課題への分割、抜け漏れ・ダブリの防止

☑ 基本的な活用方法

⇒ まずは自由に必要な小課題をピックアップし、その上で
抜け漏れやダブリを検証する



Top Leaders

一見、簡単に見えるタスクであっても分割は可能

⇒「実行可能性」「期間」という2つの観点で分けられる

重要なプレゼン資料を
1週間以内に作成する

① 重要な資料を作成する

- ・ 求められるレベルの資料を作成することができるか

② 1週間以内に作成する

- ・ 時間的に間に合うといえるか

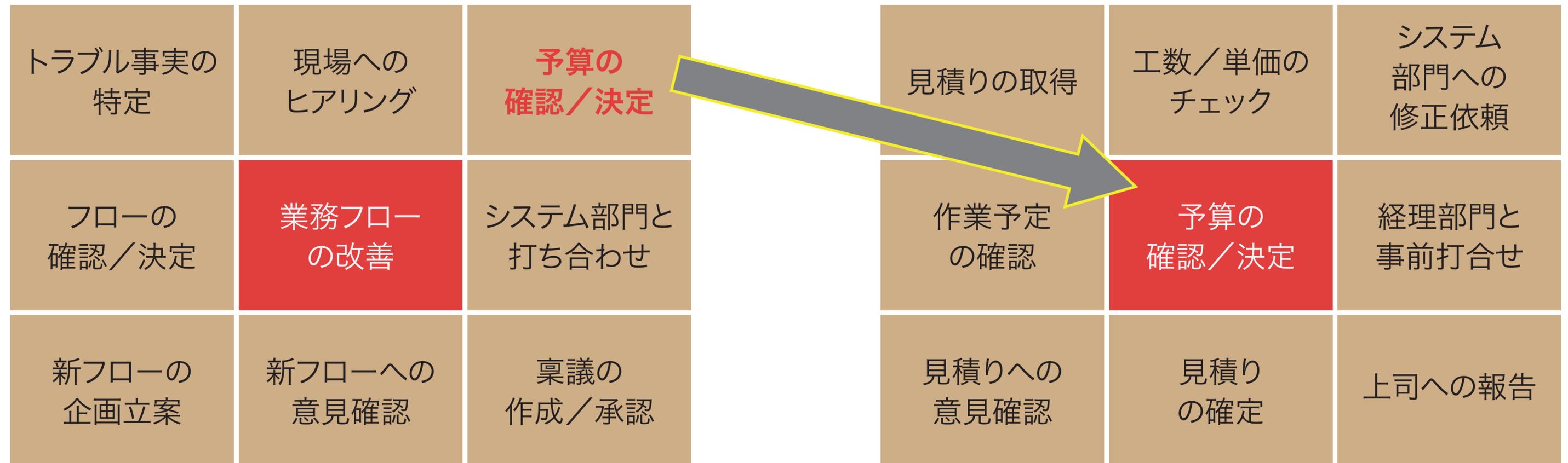


Top Leaders

「業務フロー改善」にはシステム改修も必要

⇒「予算の確認／決定」というタスクをさらに細分化していくと

下図のようになる





Top Leaders

② ピラミッドストラクチャー（構造）

☑ フレームワークの特徴

⇒課題と解決策の関係等に矛盾がないことを確認できる

☑ 基本的な活用方法

⇒大きな課題→小さな課題→解決策を構造図に当てはめる

上下どちらの方向からも検討し、矛盾の有無を検証する



Top Leaders

2つの方向から考えてみるのが重要！

「業務が多い」の延長線

⇒仮説＝直行直帰を認める

⇒するとどうなる (Why so?)

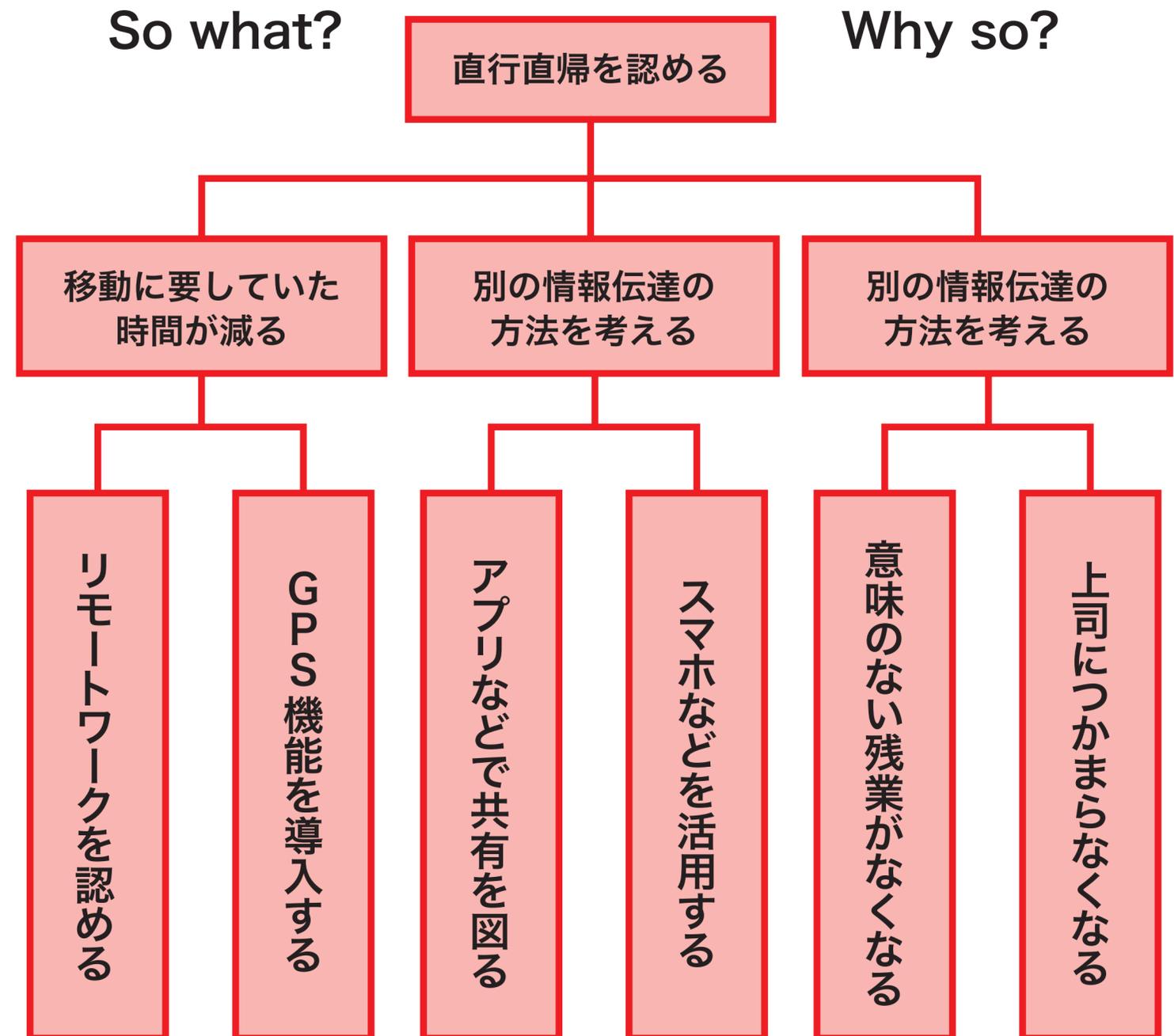
逆方向からの考え方 (So what?)

⇒リモートワークを認めれば

⇒移動に要していた時間が減る

(だから)

⇒直行直帰を認めよう



2. 活用の際の留意点



Top Leaders

- ☑ フレームワークはあくまでも 「手段」

⇒活用を「目的」と取り違えると成果にはつながらない

- ☑ 活用できるためには 6つのステップを身につける

⇒そして、成果を出すという「目的」を忘れないこと